

岩楯尾神社(いわたてお) 相模原市緑区佐野川 3448

景行天皇庚戌 40 年 (110 年)、日本武尊東征の時に持ち来った天磐楯を東国鎮護のためここに鎮め、神武天皇を祀ったのが始まりである。坂上石楯は、高座郡の県主(あがたぬし)で第 47 代淳仁天皇の天平宝字 8 年 (764 年) に藤原仲麻呂の乱 (恵美押勝の乱) の時、乱を鎮めた功によって、高座・大住・鮎川・多摩・都留の五郡を賜ったといわれ石楯尾神社の保護者であった。江戸時代には武甲相三州から多くの民衆がお参りし、幼児の疳虫(かんのむし)除けの祈祷を受けたという。永禄 12 年 (1569 年) に武田信玄が小田原を攻めた(三増合戦)時に焼かれたが、その後、再建されて今日に至っている。幣殿、拝殿は 1937 年 (昭和 12 年) に改築されたが室町時代の建築様式をよく伝えている中国模様の彫刻は見るものを引き付ける。本殿棟札には「天保 7 年 (1836 年) 11 月氏子中、調写、浄善石船、謹記」とある。祭神は神日本磐余彦尊、石村石楯、藤木姫と多くを祀っており、境内社には八幡神社、日月両宮、蔵祖神社、天満天神、春日神社、住吉神社、浅間神社、御嶽神社、疱瘡神社、榛名神社、石楯尾祖霊社がある (新編相模国風土記稿、境内案内板より)



急な階段を昇り詰めると立派な山門があり、山門には神輿が納められていた



拝殿と扁額



周りには中国模様の彫刻が四方にある



拝殿横から



奥宮(光って中がよく見えない)



回りには多くのお宮がある



二本杉(夫婦杉)は説明版によると天然記念物に指定されているが樹齢などは不明